

# 会報こぶし

発行 花北地区  
コミュニティ協議会  
編集 総務企画部

## 令和6年度地域づくり交付金事業の報告

【事務局次長 佐藤加津三】

花北11地区の各自治会での標記事業は次のとおり完了いたしました。

- ▼浅沢(補助額742,120円)  
側溝蓋整備、防災資機材購入、防犯灯LED化、土砂撤去
- ▼星が丘二丁目(補助額445,580円)  
祭半纏購入、防災用トランシーバー購入、カーブミラー設置、ごみ集積所移設
- ▼四日町二丁目一区(補助額261,760円)  
防犯灯LED化
- ▼四日町二丁目二区(補助額693,000円)  
側溝蓋整備、イメージハンブ設置、掲示板交換
- ▼四日町二丁目(補助額390,000円)  
祭り用紅白棒購入、公民館給湯器交換、防犯灯新設
- ▼四日町三丁目(補助額828,970円)  
公民館エアコン・暖房機購入、側溝蓋整備、ごみ集積所改修、ごみステーション購入
- ▼一日市(補助額34,540円)  
防犯灯LED化
- ▼愛宕町(補助額298,000円)  
掲示板設置
- ▼桜台(補助額342,630円)  
自治会会館用テレビセット購入、防災用発電機購入、防犯灯交換
- ▼坂本町(補助額22,000円)  
ごみ集積所塗装
- ▼小舟渡(補助額155,000円)  
ごみ集積所塗装2件、公民館看板書き直し、防犯灯LED化
- ▼四日町二丁目二区、四日町二丁目協働事業(補助額165,000円)  
生活道路改修
- ▼四自治会協働事業(補助額481,790円)  
四日町二丁目一区、四日町二丁目、

一日市、小舟渡、後川さくら並木ライトアップ事業  
▼補助合計額  
4,811,392円  
交付金事業に占める割合50・6%



補助金で塗装された小舟渡のごみ集積所(佐藤鉄工所前)

### 各部会事業報告

#### 総務企画部

部長 菊池善明

部長となり、2年目の活動を終えようとしています。少しずつですが、自分の立場や仕事内容がみえてきたところです。

今年の事業を振り返ってみますと、少し残念だったことは、秋のバス研修旅行参加者が、少なかったことです。昨年ならば、バス2台で研修していた

所ですが、今年の参加者は39名、バス1台の研修旅行となりました。来年は昨年のようにバス2台での研修となるように原因を探りながら、研修先や期日設定などを部会内で話し合っていたいと思います。

会報「こぶし」を39号、40号、41号と発行することができました。各部長さん方には、年2回ものご寄稿をお願いしておりますことに恐縮いたしております。

又、地区だより等にたくさんの方に寄稿頂き、感謝申し上げます。

#### 生活環境部会

部長 中園教一

令和6年度も残すところ一か月余り、生活環境部会の活動を報告します。

今年度は愛宕公園の芝生張替工事に伴い、例年実施していた公園の草刈り・清掃作業は行われませんでした。部会員を中心として

①花北振興センターのプランター花植え(6月)

②愛宕公園グラウンド草取り清掃(7月・9月)

③各地区ゴミ集積所の収集日・収集物掲示板の更新

④花北地区文化祭の準備・後始末支援。特に愛宕公園グラウンドの草取り清掃

作業には、地区民や桜台学童クラブの沢山の方々の協力がありません。改めて感謝申し上げます。

## ◆教育文化部会

部長 松田廣邦

今年度の部会事業について報告いたします。従来の「盆栽を楽しむ会」に代わり文化講演の観点から伝統芸能である「倉沢人形歌舞伎」を上演しました。花巻市の文化財でもあり、多くの方々に興味を持って訪れておりました。花北地区文化祭は、出展数は若干少なめでしたが入場者数は500名を超えて盛況となり、ステージ発表会も同様に参加団体、観客数とも増加しております。恒例の花北寄席。今年は「年忘れ花北寄席」として実施。二度目の出演となる神田春陽さんの講演は落ち着いた語り口の中に多くの笑いを交えた名調子。観客も満足の躰でした。市民憲章大会には4名の参加、有意義な講演を聴講出来ました。以上が活動報告となります。

## ◆保健体育部

部長 牛崎 弘

令和6年度はソフトバレー大会、ニ

ユーススポーツ大会、ソフトボール大会、グランドゴルフ大会の4事業でした。

まずはソフトバレー大会。6チームで参加者74名。1位小舟渡、2位四日町二丁目、3位四日町三丁目でした。

続いてニユーススポーツ大会。10チームで参加者114名。ユニカールの部1位愛宕町、2位坂本町、3位四日町一丁目一區。シャッフルボードの部1位四日町二丁目、2位浅沢、3位星が丘一丁目。ステイックボールの部1位四日町二丁目、2位浅沢、3位星が丘一丁目。総合優勝は四日町二丁目、2位愛宕町、3位星が丘一丁目でした。

ソフトボール大会。7地区参加者97名。1位小舟渡、2位星が丘一丁目、3位四日町一丁目と四日町二丁目でした。

最後にグランドゴルフ大会。10地区参加者72名。1位星が丘一丁目、2位四日町二丁目、3位浅沢でした。

## ◆地域安全部会

部長 松田修一

第1回地域安全部会会議を令和6年5月11日に部会委員8名の出席者のもと開催されました。

その後、令和6年度事業計画について協議し次のとおり決定されました。実施される事業計画を4項目とし、今

年度の事業がスタートしました。

- ・防災用携帯無線機交信訓練の実施

- ・秋の交通安全運動啓発活動

- ・地域の交通安全施設点検

- ・救命救急セミナー

東日本大震災を契機に毎月11日を防災の日として防災用携帯無線交信訓練を行って来ました。今年度は運営委員の当番制として訓練を継続しました。秋の交通安全運動の一環として「早めライトの点灯」の啓発活動を9月28日に行った。10月21日から11月12日の間、各地区内の交通安全施設点検を実施し危険箇所の洗出しを行っていただきました。11月30日花巻市の出前講座を利用して各地区から大勢の人が参加されて救急救命セミナーを花巻中央消防署の協力を得て5名の消防署員を講師に招き、応急手当講習や心肺蘇生法を実体験してもらいました。いざという時に役立ててもらえれば皆様にとっては有意義な講習会ではなかったでしょうか。花北地区文化祭においては3日間延べ6名の部会員が応援に参加していただき苦勞様でした。以上が今年度の地域安全部会の活動でした。各地区の部会員のご協力により無事、今年度の事業計画が実行された事に対して感謝申し上げます。

## 地区だより

### 新道交差点

坂本町 川村優介

ギリシャ神話に登場するシーシユポスは神々の逆鱗に触れた事により山頂まで重い岩を運ぶ制裁を科せられました。しかし、苦勞を重ね山頂まで運んだ岩は瞬く間に麓へと落とされます。シーシユポスは幾度も山頂まで岩を運ぶのですが、頂上が見えた所で再び岩は落下させられます。そして、この懲らしめは半永久的に繰り返されます。フランスの哲学者アルベール・カミュが記したシーシユポスの神話には、この不条理な概念を多難な人生になぞらえ再生を促す思想が綴られています。到達点が見えた所で振り出しに戻る。恐らくカミュは、シーシユポスの神話に基づき人生において終着点は決して存在しない事を述べたかったのではないかと私は愚察します。私たちの住む町は、かつて坂の下町と言われ小さな区画に位置していますが、シーシユポスの様に幾度坂道を転げ落ちようとも果敢に頂上を目指し歴史を築いてきた様に思います。

明治18年、旧徳富齒科前から吹張町へと通じる道路が造られ、後に新道と



坂本町バス停付近の様子

呼ばれる様になりました。新道が完成する以前は、旧徳富菌科付近の交差点から花巻小学校方面へかけて区域の道の分岐点が鉤状に形成されていた事から鍵町と名付けられ、敵軍からの攻撃を交わす為に道が敷かれた様です。又まなび学園と旧総合花巻病院の間を通る細い坂道がありますが、新道ができるまでは、その坂が川口町(現在の町、里川口町)との雄一の連絡通路だった様です。明治天皇東北巡幸の際も天皇を乗せた馬車がその狭い急坂を苦勞して下りたとの記録があります。

市史では坂上田村麻呂が、天長年中に戦の神である八幡神を勧請し「阿弥陀仏に由来する寺院」という真言宗の道場を草創されたが、伝説の域を達しない。代々花巻城、城郭構築の基本として陰陽道より城の中心の北東の鬼門に八幡宮を設けた。

慶長19年造営、翌年、御祭神が品陀和気命で神仏習合の風潮により八幡大菩薩を本地として阿弥陀如来(市指定



例大祭を告げる幟旗

小舟渡八幡宮氏子総代長 木村清且

## 小舟渡八幡宮 1200年の歴史

令和6年度 小舟渡八幡宮秋の例大祭

東北本線が開通する前の明治18年に新しい道路が造られました。未だその道路が新道とよばれているのは、いささか興味深い事実の様に思えます。近年は、コロナ禍の影響もあり地域の活動も停滞しましたが、歴史を紐解けば、新たな道筋が見えて来るのかも知れません。



花小ソーランを踊る子供たち

文化財)を奉納し、現在に至る。以来、秋の例大祭に祭礼が行われてきた。

令和6年9月22日、小舟渡八幡宮秋の例大祭が開催された。昨年まで5年間は神事のみで奉納大演芸会はコロナ禍で中止であった。氏子総代会で再開しようとして検討したが5年間のブランクは大きく、地元の女性部の舞踊やカラオケ、小学生によるダンスなど出演をお願いするも女性部は高齢化し、こども達はどうして良いか解らないと演芸会が成り立たなかった。何度もお願ひし地元小舟渡女性部でつくる『葉之会』と『小舟渡地区花巻小学校PTA』の出演に漕ぎ付けた。さらに演芸会に花を添えるよう岩手弁のエンターテイナー『中川愛子おばちゃんとその社中』『福田こうへいファミリー』をゲスト



中川愛子社中の民謡

に開催することで準備を進めた。当日演芸会は、雨で神社の神楽殿を利用できず、公民館で開催することになった。5年ぶりに披露された小舟渡女性部の艶やかな演舞、小学4・5年生約30人の『花小ソーラン』は、沢山の地元のおじいちゃんやおばあちゃんと、こども達の家族で公民館大ホールは溢れた。さらにはあい子おばちゃんの流暢な岩手弁トーク、福田こうへいのお母さんキヌエさん(今年度民謡全国大会優勝者)の民謡、福田ファミリーの歌と踊り、中川社中の歌と舞踊が続き最後まで盛り上がった。雨降りて屋外の屋台が出店できないと思っていたが、雨が上がり小舟渡地区花巻中学校PTAの父兄の皆さんによる屋台の出店があり、秋の例大祭、奉納大演芸会は楽しくにぎやかに開催された。

## 愛宕公園の整備について

花巻市建設都市政策課 課長 藤井善也

日頃より、市の建設行政にたいしてご理解とご協力をいただきありがとうございます。中でも公園の維持管理については花北地区の皆様からご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

市では、老朽化が進む公園施設の改修と更新を進めるために、令和2年度に策定した花巻市公園等施設長寿命化計画に基づき対策を実施しています。また、景観向上や快適な憩いの場の提供を目指し、主要な道路に面し、多くの人々の目に触れる公園や、教育・保育施設が隣接し日常的に利用される公園を対象に令和元年度から芝生広場整備にも計画的に取り組んでいます。

これらの計画に基づき愛宕公園の整備を行いました。大型遊具の更新と同時に広場の整地と芝生整備を実施したため、5月下旬～10月末まで長期間にわたり公園の一部を利用制限する必要がありますが生じたものの、花北地区の皆様のご理解とご協力の下、無事に完了することが出来ました。改めて、感謝申し上げます。

今回の整備概要ですが、遊具更新は既存の大型遊具を撤去し、令和5年度

に桜台学童クラブと桜台小学校の協力を得て、児童へのアンケート調査を基に選定した児童用大型複合遊具、小児用小型複合遊具、ロープウエーを設置し、遊具周辺はクッション性を考慮した砂系舗装とゴム系舗装を施しました。芝生広場は、広場内の段差を解消し、一体的に利用できる広く平坦な芝生広場を整えました。また、日陰で休憩できる東屋1基とベンチ3基を設けました。芝生の管理は、令和7年度は市が直営で行い、令和8年度以降は花北地区コミュニティ協議会と相談し進めていく予定です。

最後に、この愛宕公園が子供たちの遊び場として、また地域住民の皆様の憩いの場として、多くの方々々に愛される場所となれば幸いです。



複合遊具



芝生等整備箇所 全景

## 秋のバス研修旅行に参加して

四日町一丁目区 松田悦子

子供の頃、明日は遠足という前の晩

は、何度も夜空を眺めては眠れなかった事を覚えています。

あれから〇〇年。今は昔とは違いますが。主人を一日置いて出掛ける心配、昨日迄の雨降りや洗濯物を外に干さなければ…とか毎朝の習慣となっていた。ラジオ体操のこと、時間までに集合場所に行けるのか、そして暖かいのか寒いのか気にかかっていました。そんな私の心配をよそに主人は「明日は何だっけ、羽を伸ばして行つてらっしゃい」の一言でした。天気も良く寒くもない研修旅行でした。

何よりも引率してくれた総務部長さん、元小学校の先生だったそうでバスに乗車した途端に熊についての講義がありました。そうした貴重な資料は帰ってから読むことにして旅行の浮き浮きした生徒の気分が資料は椅子のポケットに入れて置くことにしました。間もなく紅葉にはまだの岩山動物公園に到着しました。動物公園というだけあって身近な動物と対面し一方的な話しかけをして回りました。

初めて見る動物もいれば象やキリン、カンガルーは檻での対面でした。今話題のクマには無視されてしまいました。フラミンゴの羽根をひろげたダンスには心が癒されました。途中岩山パークランドを横目にして、子供の頃

なら「先生寄って見たいです」と言いたかったのですが、車窓からの眺めで我慢して来ました。幹事さんは万歩計で6千歩歩いたと言っておられました。が、私の足では5km位でした。

昼食は、盛岡八幡宮向かいの初駒でした。盛岡三代麺のじゃじゃ麺、冷麺、そばが出され、部長が「皆で一緒にいただきますをしましょう」と声を掛けられました。味付けご飯、みそ汁等空腹のおなかにはとても美味しく感じられました。昼食後には八幡宮にお参りに行かれた方もあったようです。屋台も沢山出ており、お祭りのような賑やかさでした。次は御所湖近くの手作り村です。茅葺屋根の南部曲屋の中を見て昔を懐かしんだ人、南部せんべい焼きを体験した人、私は、友達から御手洗団子をご馳走になり、それぞれ童心に返った研修旅行でした。バスから下りる際には「楽しかったね！来年も又旅行に行こうね！」と言葉を交わしながら家路についたところでした。

### ◆編集後記

今号の発行にあたり、ご寄稿いただいた皆様に感謝申し上げます。

日本海側の大雪や道路の陥没事故がありました。災害のない穏やかな1年となつて欲しいです。

(伊五澤繁喜)